

地ビールを扱う既レストラン

席が二層に分かれており、一階は家族や友人と楽しく食事が行える場、中二階は地元産のビール樽を設置したビアホールを設け大人の憩いの場とする。そうすることで一つのレストランで異なる過ごし方をする事ができ、利用者需要に合わせた居場所が増える。

地域とのふれあいち

東地区にはステンドグラスの工房や小さなパン屋さん、花屋さん、カフェなど、多くの店舗が集まっている。しかし駅からは少し離れたところに位置しているため、それを知るきっかけが少ない。そこで店舗スペースを貸し出し、商品の一部を取り扱うことで、店舗とのふれあいを作る場を設ける。

広場→エントランス→レストラン→厨房→搬入口  
実際には進むことができないが、人と食べ物の流れが散歩道で繋がっている。

車通りと寛通りの少ない道路に面しており他の広場よりも静けさのある場

学生が最も多く通る学園通り沿いには学生が利用しやすい集まる場を提供

1.2mの高さにある中二階のレストランからは食事に視線を向けた時目の片隅に広場で過ごす人の様子が入る

↓↑ 互いの視線が気にならない程度に様子が視界に入る

少し顔をあげることでレストランの様子が見える

散歩道が交差しており自分でどの道に進むかを選ぶ

敷地をはみ出す広場や散歩道は地域への繋がりと流れを促す

壁のないフォリーを設けることで、広場の解放感と見渡しの良さを残しながらも、居場所を作ることができる。また天井高を4000とし、広場と同様な創造性を残すことで、天井による活動制限を少なくする。

本棚に囲われたライブラリーで、上には大きな天窗がある。そこから見る景色は井戸の中のように、本が井戸水と重なり、その綺麗な水に手を伸ばしたくなる。そしてすくった水を手に井戸の外に行き、自分の中に取り入れる。